



本日の
プログラム

新会員卓話 渡辺健太 会員

コンクリート製品の価値と未来 (株)上田商会 代表取締役社長 上田 朗大 氏

今日は『コンクリートの価値と未来』という演題で卓話させていただきます。少しでもコンクリート二次製品のことや、その価値について知っていただき、私たちが向かっている方向についてもご理解いただければ幸いです。

弊社は1925年に滝川市で創業しました。3月で98年目に入ります。コンクリート製品製造と金物屋をルーツとした企業で、1936年に登別工場を開設、1950年に法人化致しました。営業エリアは札幌市を中心とした道央地区から函館を中心とする道南地区まで、事業拠点は5工場・7営業拠点となります。その他インドにも事業拠点があるのですが、茨城と小倉の同業社と共同で2021年にマハラシュトラ州アウランガーバード市に工場を建設し、昨年の4月から稼働を開始致しました。新幹線工事や高速道路をはじめ旺盛なインフラ投資が期待されております。

主な営業内容としては土木・建築用コンクリート二次製品の製造販売、生コンやリニューアル工事部門があります。グループ会社では建設資材や電動工具の販売や生コン商社、LPガスや灯油の販売、園芸資材の販売なども行っております。市場環境についてお話しますが、主要な原材料であるセメントの需要推移によると1990年のピーク時は8,600万tあったのに対し2022年度は3,700万tの出荷となっており、約6割減少しており市場の縮小が続いております。また昨今の世界的情勢の混乱によりセメントを製造する際に燃料として使われる石炭の価格が5~6倍に跳ね上がっており、当然セメントメーカーは大幅な値上げを打ち出しており対応に苦慮しているところです。

コンクリート二次製品はプレキャストコンクリートとも呼ばれており、あらかじめ工場で作ったコンクリート製品を意味します。そのため現場では据え付ける工事のみが必要とされ工事期間が短縮することが出来ます。工事現場に生コン車でコンクリートを運んで構造物を作るとコンクリートが所定の強度を発現するまで28日を必要とします。製品の場合はその期間が不要なため、すぐに道路等を供用できるなどのメリットがあります。そして、工事期間が短くなることによりトータルの建設コストの低減に繋がります。また施工が省力化されるため労働力不足の対策になります。さらには工場製品なので天候に左右されにくく品質が安定しております。また工事に関わる資材を減らすことができますので安全性も向上します。

今は建設工場の低炭素化への貢献も求められております。当社は昨年6月より全国で初めて全ての工場の製品を低炭素配合にしました。それらをエシカルコンクリート“TUTUMU”というブランドにしてお客様へ販売しております。従来製品と同じ価格で平均41%のCO2(二酸化炭素)の削減、強度と耐久性は約3倍向上するというものです。それらが建設現場で使われたことによって削減できたCO2排出量を可視化しホームページで公開しております。またご利用頂いたお客様には現場単位でどの程度CO2が削減できたかのレポートを提出し、発注者様への説明等に使用していただいております。これらの活動に連動して上田商会としてもSBT認証(※)を受け、弊社自身も温室効果ガス削減にコミットしているということを国際的な水準で証明しております。

もう一つの新たな取組みとして3次製品化も行っております。第一弾としてコンクリートサウナ“CUBERU”を作りました。デザイン性・耐久性・気密性を売りにした商品です。別荘・宿泊施設・キャンプ場など個人、事業者を問わず全国からお問合せをいただいております。コンクリート二次製品は全て半製品であるのになら、三次製品は完成品のため何を作っている会社なのかというのがわかりやすく、かつ最終ユーザーから直接評価を聞くことができる貴重な存在です。また商品を販売するだけではなく販促イベントなども主催するという初めての経験もしました。新得町の屈足湖のサウナイベントでは、他のアウトドアサウナの中でも抜きん出ており高評価をいただきました。今後も様々な時代の変化があると思いますが、何らかの道を見つけ一歩ずつ成長して参ります。ご清聴ありがとうございました。



※SBT (Science Based Targets) 認証は、パリ協定(世界の気温上昇を産業革命前より2℃を十分に下回る水準(Well Below 2℃)に抑え、また1.5℃に抑えることを目指すもの)が求める水準と整合した、5年~15年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標のこと。